

中国日本商会

みつま

## 三潞先生の 「ナルホド中国、ナツク中国」



### 三潞コラム 中国「津津有味」-1

昨年9月、大運河が世界遺産になったのを機会に、天津から大運河沿いに德州—聊城—斉寧—淮安—揚州—鎮江—上海と下ってみました。大運河の原型は紀元前春秋時代の呉越の時代まで遡りますが、有名なのは淮河と黄河を結び、更に洛陽まで延長した隋の煬帝。元の時代には大都（北京）に至る京杭大運河が完成し、明清時代には運河沿いが大発展、蘇州や杭州のシルクがこの運河を通過して世界中に運ばれていきました。清末、上海が開港し昔日の面影は失われましたが、今になって世界遺産として注目されたのです。

実際に見て回って痛感したのが「南船北馬」。斉寧から北半分は形跡は残っているものの、もはや水運としては機能していませんが、斉寧以南になると、各所で今も盛んに水運が行われており、数十艘を繋いだ、貨物列車のような長い運搬船にも出くわしました。

中国の地域発展は、2015年までの第12次5カ年計画で1978年以来の第一期計画がほぼ完成、今後は、2011年に公布された全国主体機能計画に基づき“両横三縦”を骨組みに展開されますが、これと連動するのが“一帯一路”、ユーラシア大陸を包含し、更にはアフリカやポリネシアまでも視野に入れた世界戦略です。

“両横”の一つは“陸橋通道”、即ち黄河沿い、連雲港から中央アジア、ドイツを通りオランダに抜けるユーラシアンランドブリッジの一部分で、“一帯一路”の“一帯”（シルクロード経済帯）もこれに重なります。もう一つは“沿江通道”即ち長江沿い。長江は下流地帯に上海を中心とした長江デルタ経済圏が、上流には50年代の対日米国防戦略の一環として東北地方の重工業を四川に移した三線建設による重工業を中心とした長江上流経済圏（成渝経済圏）があり、中流域は21世紀に入り、武漢、南昌、長沙を結んだ中三角経済圏が構想されました。これらを統合した構想が最近打ち出された“長江経済帯”です。

“三縦”の重要な役割の一つはこの“両横”を繋ぐことですが、我々は京滬線などの沿海高速鉄道、京九線、京広線など中部を縦に貫く鉄道、そして西安—成都—昆明—重慶—西安とつながる西部菱形経済圏に目が向き、古代からの交通の要衝が高速道路などの建設により新たな物流ルートとして勃興していることを見逃しがちなのでは、と痛感しました。

今回訪れたどの都市の中心にも大連万達のショッピングモールが見られました。街中は電動二輪車、三輪車が縦横に走っていました。昨年久々に南昌を訪れ、その大発展ぶりに驚きましたが、ここもまた昔の交通の要衝です。今は福

中国日本商会

みつま

# 三渚先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



建省の福州とも高速鉄道が通じ、福建や台湾の資本がここを通り、長江中流の拠点、武漢へ、また義烏を通して長江デルタへと進出しています。このルートはまた、長江ラインと“一带一路”の“一路”、即ち海のシルクロードを繋ぐルートでもあります。

今、株式市場の混乱から中国の前途を危ぶむ声が喧しくなっています。今後5年程度、中国が経済調整の中でかなりの紆余曲折を味合うであろうことはとうに察しが付いていることですが、一方で、中国の重厚なファンダメンタルズを見落とすと、長期的には大きな判断ミスを犯します。中国の地域発展構想は長期的かつ綿密なプランに則っており、そこを見落とすことが無いよう、注意が肝心でしょう。

中国日本商会

みつま

# 三瀨先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



中国日本商会では、三瀨先生にコラムの寄稿をお願いしました。月 1 回のペースで、三瀨先生の「ナルホド中国、ナットク中国」のコラムをお届けする予定です。第 1 回目の内容はいかがだったでしょうか。下記は三瀨先生のプロフィールです。

みつま まさみち

三瀨 正道

略歴

- 東京外国語大学大学院修了
- 麗澤大学 外国語学部 特任教授
- (株)海外放送センター顧問
- NPO 法人日中翻訳活動推進協会（而立会）理事長
- 日本中国学会・中国語学会 会員
- 日中異文化コミュニケーション研究会 代表世話人

日中異文化コミュニケーション論と、それに基づく現代中国分析には定評があり、中国進出企業からの講義の依頼も多い。核心をついた理論と分析に加え、エネルギーで親しみやすい、人間味溢れる人柄は、多くの「ミツマファン」を増やしつづける所以である。また、「論説体（現代書き言葉）中国語」の研究分野では日本の第一人者であり、氏のライフワークでもある。

多くの企業・団体での講演実績あり。

<著書>

「中国語論説体読解力養成講座」、「ビジネスリテラシーを鍛える中国語 I・II（共著）」「中国時事問題解説（シリーズ）」、「現代中国の軌跡（共著）」、「やさしいビジネス中国語（共著）」、「知りたいことがしっかりわかる実戦中国語文法」、「現代中国走馬看花」、「現代中国放大鏡（シリーズ）」、「現代中国トピックス」、「現代中国 13 の顔」など多数

<翻訳/監訳>

「氷点停刊の舞台裏」（著：李大同、日本僑報社刊）

「今、中国が面白い 中国が解る 60 編（シリーズ）」（訳：而立会）など多数